

福島県南相馬市 『相馬野馬追』

期間 令和4年7月23日(土)～25日(月)

相馬野馬追は、相馬中村神社・相馬太田神社・相馬小高神社3つの神社の祭礼として、雲雀ヶ原祭場地を中心に旧中村藩領各地で開催され、御行列・甲冑競馬・神旗争奪戦・野馬懸けなどを行います。

その起源は、今をさかのぼること一千有余年の昔、相馬氏の遠祖とされる平将門が下総国小金ヶ原(現在の千葉県流山市付近)に野生の馬を放して、野馬を敵兵に見立て追う軍事練習として、さらに毎年捕らえられた野馬を神馬として、神前に奉納した神事に始まったと言われています。その後、相馬氏は、鎌倉時代より幕末までお国替えのなかった希少な名族として、元亨三年(1323年)頃、現在の南相馬市に移り住んでからも代々の相馬領主が明治維新までこの行事を続け現在でも総大将は相馬氏の子孫が受け継いでいます。昭和53年5月国の重要無形民俗文化財として指定されました。

